

【令和8年産県生産目標の設定手順】

- ① 令和7年7月～令和8年6月末の本県産米需要量の推計
- ② 令和8年6月末の在庫量の推計
- ③ 令和8年7月～令和9年6月末の需要量の推計
- ④ 令和9年6月末在庫を適正在庫量（年間需要量の3カ月分）とするための令和8年産生産量の推計

# 県生産目標について ～手順①：本県の令和7/8年の年間需要量の推計～

- 国は、今般の見通しから、インバウンド需要や精米歩留まりを考慮し、需要量を幅を持たせて推計する。
- 国は県別の需給見通しを公表しないため、本県の令和7/8年の需要量は、過去5年の新潟米のシェアを令和7/8年の全国の需要見通し（697万トン～711万トン）に乗じて、最大値、最小値を推計する。
- この結果、令和7/8年の本県の需要量は、最大で56.17万トン、最少で55.06万トンとなる。

## 【全国及び新潟県の需要量の推移】

年産	R2/R3	R3/R4	R4/R5	R5/R6	R6/R7	5年平均	R7/R8	
							最少	最大
全国	7,040,000	7,015,000	6,911,000	7,049,000	7,127,000	7,028,400	6,970,000	7,110,000
新潟県	592,200	553,734	536,418	530,867	548,412	552,326	<b>550,630</b> (697万トン ×7.9%)	<b>561,690</b> (711万トン ×7.9%)
本県需要量の割合	8.4%	7.9%	7.8%	7.5%	7.7%	7.9%	7.9%	7.9%

# 県生産目標について ～手順②：令和8年6月末の在庫量の推計～

- 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和7年10月）及び前頁で推計した需要量から令和8年6月末の在庫量は14.45～15.56万トンとなり、3.09～3.39カ月分となる。

## 【新潟米の需給見込み】

(万トン)

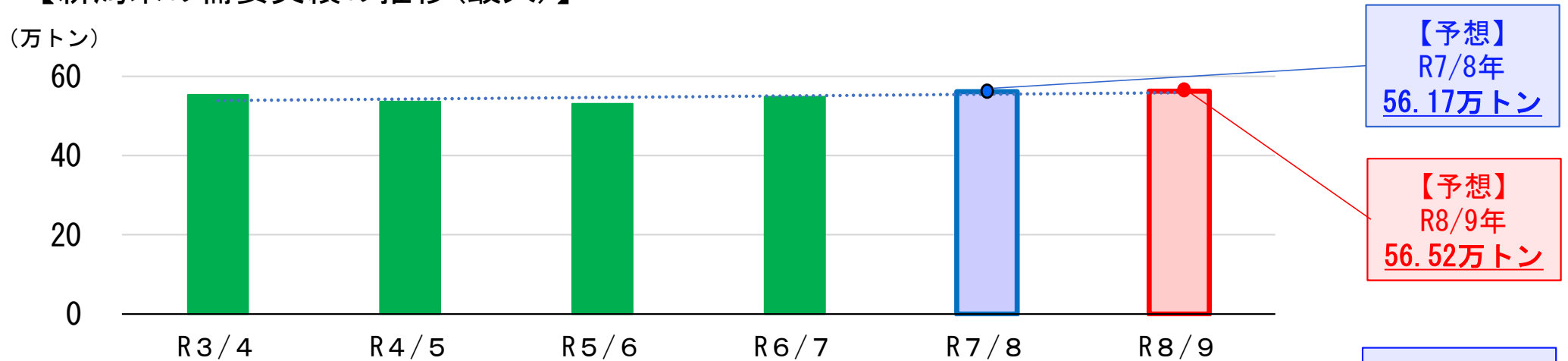
	令和6／7年	令和7／8年
期首6月末在庫 A	12.13	11.76
生産量 B	54.47	58.86
需要量 C	54.84	55.06～56.17
期末6月末在庫 $D = A + B - C$	11.76	14.45～15.56 (3.09～3.39カ月分)

注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある

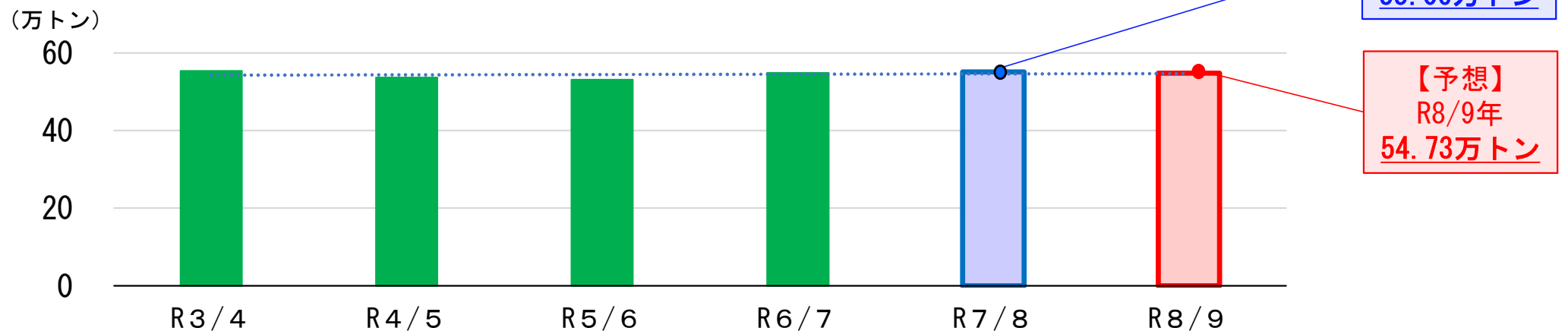
# 県生産目標について ～手順③：令和8年7月～令和9年6月末の需要量の推計～

○ 過去4年実績及び、手順①で推計した令和7/8年需要量から推計すると、令和8/9年の需要量は54.73～56.52万トンとなる。

## 【新潟米の需要実績の推移(最大)】



## 【新潟米の需要実績の推移(最少)】



# 県生産目標について ~手順④：令和9年6月末在庫を適正在庫量（年間需要量の3カ月分）とするための令和8年産生産量の推計~

○ 本県の令和8/9年の需要量が最大となった場合にも安定供給できる生産量を確保するという考え方で算出すると、8年産の生産目標は56.2万トン、面積換算で103,700haとなる。

## 【新潟米の需給見込み】

	令和7/8年（再掲）	令和8/9年
期首6月末在庫 A	11.76	14.45~15.56
生産量 B	58.86	52.85~56.20
需要量 C	55.06~56.17	54.73~56.52
期末6月末在庫 D = A + B - C	14.45~15.56 (3.09~3.39カ月分)	13.68~14.13 (3カ月分) ※

・ 8年6月末在庫が最低値(14.46)で、  
 ・ 8/9年需要が最大値(56.52)  
 となった場合に、需要3か月分(14.13)を満たせる生産量

※但し、期首在庫が最大、需要量が最少の場合、過剰に在庫{17.03万トン(3.73カ月分)}が積み上がる懸念

## 【令和8年産の生産目標】{篩目1.7mmベース（542kg/10a）}

	令和7年産実績	令和8年産目標（案）	前年差
生産量	58.9万トン	56.2万トン	▲2.7万トン（95.4%）
	【参考：篩目1.85mm（524kg/10a）ベース】		
	57.0万トン	54.3万トン（56.2×524/542）	▲2.7万トン（95.3%）
面積	108,600 ha	103,700ha	▲4,900ha（95.5%）

【令和8年産県生産目標の設定手順と推計結果について】



- ① 令和7年7月～令和8年6月末の本県産米需要量の推計  
→ 55.06 ～ 56.17 万トン
- ② 令和8年6月末の在庫量の推計  
→ 14.45 ～ 15.56 万トン (3.09～3.39カ月分)
- ③ 令和8年7月～令和9年6月末の需要量の推計  
→ 54.73 ～ 56.52 万トン
- ④ 令和9年6月末在庫を適正在庫量（年間需要量の3カ月分）とするための令和8年産生産量の推計  
→ 52.85 ～ 56.20 万トン

⇒

**8年産目標 : 56.2万トン ・ 103,700ha**

# 県生産目標について ～酒米・もち米について～

○ 主食用米のうち、県内事業者から需要がある酒米については、令和6年産並の水準、もち米については、令和7年産の水準を目標に取り組む。

作物名等	6年産実績 (千ha)	7年産実績 (千ha)	8年産目標 (千ha)		8年産の方向性
全主食用米	101.4	108.6	103.7 (前年▲4.9)		
酒米	2.4	2.3	2.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内実需者が必要としている量を確保するため、生産を拡大</li> <li>・ 国事業の活用や産地との結びつきを推進</li> </ul>
もち米	3.0	2.7	2.7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内実需者が必要としている量を確保するため、7年産の生産量を維持</li> </ul>
酒米、もち米以外	96.0	103.6	98.6 (前年▲5.0)		

※ 酒米は五百万石と越淡麗の種子注文数等から算定した数値

※ もち米は米穀検査実績（国公表値）、加工用米生産量（国公表値）、種子注文数等から算定した数値

# 非主食用米等の生産目標

○ 県内食品製造事業者等の需要にしっかりと応えていくため、加工用米、米粉用米、また、海外からの需要が伸びている輸出用米の生産に優先的に取り組む。

作物名等	6年産実績 (千ha)	7年産実績 (千ha)	8年産目標 (千ha)		8年産の方向性
加工用米	6.8	6.6	6.7	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内実需者が必要としている量を確保するため、生産を拡大</li> <li>・ 安定供給につながる、省力・低コスト・多収栽培を推進</li> </ul>
米粉用米	1.4	0.7	1.0	➡	
輸出用米	1.8	1.5	1.7	➡	
飼料用米	2.9	1.3	1.3	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多収品種での取組を基本とし、県産飼料用米を必要としている県内畜産業者の需要に応じて生産。一般品種で取組んできた場合は、加工、米粉、輸出用米へ転換</li> </ul>
WCS用稲 飼料作物	1.0	0.9	1.0	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県産粗飼料の需要にしっかりと対応</li> </ul>
大豆	3.9	3.3	3.3	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻との輪作により生産を維持・拡大</li> </ul>
麦	0.2	0.2	0.2	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県産小麦の需要に応えるため、水稻との輪作により生産を維持・拡大</li> </ul>
(備蓄米)	(4.7)	(0)	(4.2)	(-)	※国の買入れ状況や価格等に応じ対応
合計	22.7	14.5	19.4 (前年+4.9)		

※ 水田における作付状況調査（国公表）の数値